NAOSITE: Nagasaki University's Academic Output SITE

Title	生活の中の技能 ～その習熟度～（調査報告書）
Author(s)	古谷, 吉男; 宮本, 隆
Citation	生活の中の技能 ～その習熟度～（調査報告書）; 2012
Issue Date	2012-02
URL	http://hdl.handle.net/10069/31976
Right	

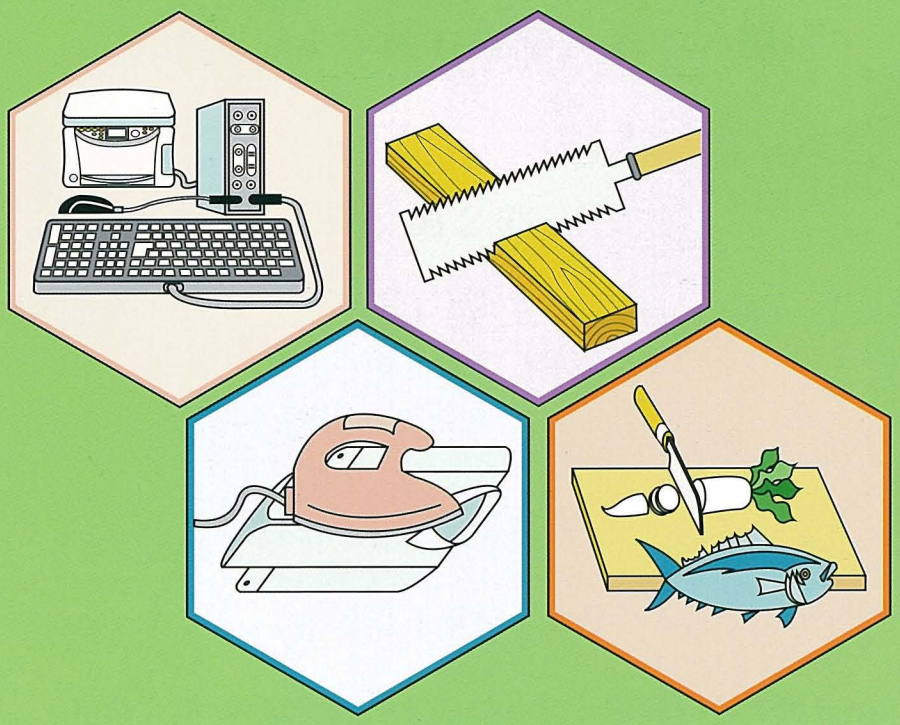
This document is downloaded at: 2015-11-05T17:40:00Z

http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp

生活の中の技能

～その習熟度～

（調査報告書）



生活の中の技能　ーその習熟度ー

（調査報告書）

内　　容

第１部

児童期（小学校６学年）までの現状

第２部

教員養成学部（大学）学生（新入生、４年生）の現状

２０１２年　２月

長崎大学 教育学部「ものづくりと教育」ゼミナール

古谷吉男　　宮本　隆　　編著

ま　え　が　き

情報化や規格化が押し進められる社会の変化の中で、われわれの日常生活は受け身になり、画一化された消費態度を余儀なくされている。加えて、少子化や核家族化、都市化が進み、子どもたちの生活環境や学習環境も様変わりした。子どもたちの自然体験は不足しており、さらに、かつては生活に付随していた諸技能（以下、生活技能と言う。）を体験する機会も大幅に減少している。その結果、自らの働きかけを通して育まれる自身の生活への実感が希薄化し、そのことが顕在化しつつある。このような傾向は、今後、グローバル化した国際競争社会の中でますます増幅されると思われる。

発達期における子どもたちの豊かな自然体験や生活上の実体験は、因果認識にまで深めて柔軟に考える力の育成に効果的につながると言われている。さらに、日常生活やその延長にある活動の中での実体験を通して「できるようになった」の、一見、ささやかな成就感情は、主体的な生活感覚を実感させるとともに、子どもの自律性を育み、自尊感情の高揚とさらなる挑戦心の喚起につながるはずである。このように考えると、発達期における基本的な生活技能の習得は、生活面での精神的な安定をもたらし、修学態度の向上や学習内容の発展を図るうえで極めて重要である。

昨今、子どもたちの実体験不足を補うための意識的な取り組みも数多く試みられつつあるが、子どもたちは、「生活に関わる技能にどのように対処しているのか？」、「本当に身の回りの技能が身に付いていないのか？」、「どの程度のことがこなせるのか？」という素朴な問い掛けから、平成１８年（2006 年）に長崎県内の小学校（一部北九州市内）を中心に調査を試みることにした。さらに、子どもの生活技能の習得には、地域や家庭に加え、学校教育も深く関わるとの立場から、平成２０年（2008 年）には将来教員を志す九州地区の大学生（教員養成系）にもほぼ同様の調査を試みた。

調査内容は、日常の生活技能に関わることを中心に、小学生には約３０、大学生には教育実践に関わることも含めて約６５の設問（巻末の添付資料参照）を用意した。

子どものたちの代表は小学校６年生とし、彼らには、それまでの自己の体験を振り返りながらの回答が出来るように工夫した。また、大学生には高等学校卒業までの技能の習得状況と、大学４年間での技能の習得状況の把握も意図して回答を求めた。

本報告書はそれらの設問への回答を整理、集計したものです。上記の観点からこの集計結果を比較検討いただき、かつ、お読み解きいただければ幸いに思います。

子どもの学力調査や体力調査は定期的に行われ、結果に対する対策等も講じられていますが、生活技能の習得状況に関わる調査は極めて少ない現状です。本報告書が、今後の子どもたちの健全な発達環境を考える上での一助になれば幸いです。

最後に、本調査研究に協力いただいた小学校６年生、ならびに大学の新入生と４年生にお礼申し上げます。

平成２４年（2012 年）２月２９日

古　谷　吉　男

関 係 者 一 覧

＜編著者＞

古谷 吉男（長崎大学 教授）
宮本　隆（長崎県 公立中学校講師）

＜共同研究者＞

宮本 麻由（北九州市 公立小学校教員）
川尻 啓治（長崎県 元公立中学校校長）
藤本　登（長崎大学 教授）
森下 浩史（長崎大学 教授）

＜調査協力校および調査協力者＞（順不同）

○児童へのアンケート調査協力校（対象学年：６年生）（平成１８年）

雲仙市立 小浜小学校（校長 徳永 卓）
雲仙市立 北串小学校（校長 川口和典）
雲仙市立 南串第一小学校（校長 冨永孝司）
雲仙市立 大塚小学校（校長 安藤芳也）
雲仙市立 神代小学校（校長 鵜殿 妙）
南島原市立 有馬小学校（校長 吉田英則）
南島原市立 西有家小学校（校長 生駒輝彦）
長与町立 長与小学校（校長 菅原康夫）
長与町立 長与南小学校（校長 大谷晶久）
長崎市立 茂木小学校（校長 深松鎮雄）
長崎市立 伊良林小学校（校長 近藤俊昭）
長崎市立 山里小学校（校長 芳田眞一）
長崎市立 西浦上小学校（校長 宇田川眞）
長崎市立 畝刈小学校（校長 杉本良和）
北九州市立 霧丘小学校（担当 宮本みゆき教諭）

○大学生へのアンケート調査協力者（平成２０年）

長崎大学教育学部（対象学年：１年生（入学時）、４年生）
小原 達朗 教授
宮崎 正明 教授（現 名誉教授）
内野 成美 准教授
糸山 景大 教授（現 名誉教授）
藤木　卓 教授
末弘百合子 技術職員
福岡教育大学（対象学年：１年生（入学時））
遠藤 秀治 教授 （協力代表者）
琉球大学教育学部（対象学年：１年生（入学時））
清水 洋一 教授 （協力代表者）

＜表紙デザイン＞

宮本　守（工房６３４ 代表）

調　査　の　概　要

目　　次

— 調 査 の 概 要 —

1 基本的な生活技能の項目と設問

（小学校児童）

日常生活に関わる基本的技能の選定範囲は、家庭内で遭遇する衣食住に関わる基本的なこと、簡単な工作や家庭菜園に関すること、小学校教科書に記述されている技能に関することを中心にした。それらを、便宜上、以下に示す５分野に分類し、その他として、テレビゲームの頻度、外遊び、スポーツクラブへの加入、好きな教科・得意な教科を加えた。

設問用紙には分野名は示さず、技能項目ごとに、習得状況（よくできる、まぁまぁできる、あまりできない、したことがない）、習得時期（入学前と各学年）、および、教わった人（父、母、教師、祖父母（親戚）、友人、自分自身 等）について、これまでの自己の生活を振返りながらの回答ができるよう工夫し、アンケート方式の選択肢と一部記述の３０題を設けた。

＜生活一般＞

リボン結び、箸の持ち方、鉛筆の持ち方、マッチで火をつける、火の調節･管理、家電製品（アイロン、炊飯器、掃除機、電子レンジ、洗濯機）の使用

＜調理・裁縫＞

生卵割り、包丁を使う（りんごの皮むき、トマト･玉ねぎのみじん切り･ねぎの小口切り）、ご飯を炊く（炊飯器）、一人での料理体験、魚をさばく、布の手縫い、玉結び・玉止め、ミシンでの直線縫い、ボタンの縫いつけ

＜掃除・整理整頓＞

雑巾（タオル）を絞る、机の中や上の整理整頓、自分から掃除をする、荷造りをする、靴を自分で洗う、プリントをノートにきれいに貼る

＜工作＞

カッターを使う、鉛筆をナイフで削る、プラスチックモデルの製作、はさみを使う、のこぎりで木材を切る、かなづちで釘を打つ、ドライバーを使う、ペンチを使う、昔遊びのおもちゃづくり

＜栽培＞

鉢の植え替え、一人での栽培経験、学校以外での栽培経験、土の耕し

＜その他＞

テレビゲームの頻度、好きな外遊び、スポーツクラブへの加入、好きな教科・得意な教科

（教員養成系大学・学部生）

児童期における調査結果との対比も考慮し、同一の設問内容を設けるようにしたほか、教師や社会人に求められる内容等について新たに設けた。また特に、パーソナルコンピュータなどのICT活用が社会及び学校現場において求められているという実態から、具体的操作内容を含む設問を設けた。

設問項目は生活一般、調理･裁縫、掃除･整理整頓、工作・栽培、ICT活用などに関わる領域から、将来学校教育で求められる内容を含めた以下に示す50問および、好き・得意な教科や栽培経験などその他15問の計65問を設定し、5段階評価（一部4段階評価）による自己評価によって習得状況を得た。

さらに、ICT活用の視点から、コンピュータ活用技能の習得についても設問した。コンピュータの活用については、どこまでできれば「できる」と言うのか個人間であいまいな部分があるため、具体的な操作例を示し、それができるか、できないかという形で設問することによって、その活用技能を判断することができるように工夫した。また、これらのコンピュータ活用技能にはコンピュータの利用頻度が大きく関与すると考え、コンピュータの所持状況についても併せて設問を設けた。

＜生活一般＞

箸を正しく持つ　鉛筆を正しく持つ　マッチで火をつける　炭や薪の火の管理
テントを張る　飯ごうでの炊飯　リボン結び　AV機器の接続配線
電球･蛍光灯の取替え　コピー機の使用　取扱説明書での操作理解
役所等での手続き　生活費の管理　地図の理解

＜調理・裁縫＞

玉結び･玉止め　布の手縫い　ボタンの縫い付け　ほつれの手縫い直し　ミシンの使用
炊飯器での炊飯　包丁でリンゴの皮むき　魚をさばく

＜掃除・整理整頓＞

食器洗い　洗濯機での洗濯　アイロンの使用　部屋の掃除　荷造り･箱詰め
雑巾絞り　ゴミの分別

＜工作・栽培＞

カッターでの切断　はさみでの切断　カッターでの鉛筆削り　彫刻刀の使用
砥石での刃物とぎ　鋸での木材切断　金鎚での釘打ち　電気回路の配線
電流･電圧の測定　折り紙での折鶴　三角定規での平行線描画
コンパスでの正六角形描画　土の耕し　鉢の植え替え

＜ICT活用・その他＞

タッチタイピング　デジタルカメラの使用　プロジェクタの使用
怪我の対応･処置　敬語の使用　英語での会話　英文の読み書き

2 調査時期と調査対象

（小学校児童）

調査は、小学校６年生を対象に、平成１８年１１月下旬から１２月中旬にかけて実施した。調査依頼校は、長崎市内及びその近郊の小学校７校（841 名）、雲仙・島原地区の小学校７校（258 名）、北九州市の小学校１校（168 名）で、回答を得た児童の総数は 1267 名（男子 674 名、女子 593 名）である。

なお、対象学年を６学年としたのは、教育的配慮も含めており、小学校の最高学年であるため、幼児期及び児童期の体験をもとにした回答が得られるほか、中学校への進学を目前とし、自己の今、現在の技能の習得状況の確認と自覚を促すためである。

（教員養成系大学・学部生）

調査は教員養成系大学・学部生を対象とし、新 1 年生については、平成 20 年 5 月から 7 月の間に、4 年生については、平成 20 年 12 月に実施した。調査依頼校は福岡教育大学 1 年生（288 名）、琉球大学教育学部 1 年生（92 名）、長崎大学教育学部 1 年生（239 名）および 4 年生（173 名）で、回答を得た学生の総数は 1 年生 619 名（男性 210 名、女性 409 名）、4 年生 173 名（男性 78 名、女性 95 名）、計 792 名（男性 288 名、女性 504 名）である。

なお、新 1 年生を対象としたのは大学教育等の影響が出ないようにするためであり、そのため調査時期も入学後すぐの 5～7 月とした。反対に 4 年生については大学教育等の影響が出るように 12 月という遅い時期に実施した。このことから、1 年生と 4 年生の結果を比べることによって、大学生活およびそれに関わる家庭生活等での技能習得の状況を見ることができると考えられる。

3 集計方法

集計は、市販の表集計ソフトを用い、各技能項目に対応する選択肢ごとの集計を行い、その項目全体に占める割合（%）を求め、次いで、技能項目ごとに全回答数に占める割合（%）を求めた。

集計する際は男女差があることを考慮し、男女を分けて集計した。また、技能習得には生活してきた環境によるものが大きいと考え、地域差についての集計も試みた。

― 目 次 ―

第１部　小学校児童（6年生）の生活技能について

１．生活一般／調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能

１－１．生活一般／調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の習得状況 …… 1

１－２．生活一般／調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の男女別習得状況 … 3

１－３．生活一般／調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の地域別習得状況 … 4

１－４．生活一般／調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の経験時期 …… 5

１－５．生活一般／調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能を教わった人物 …… 7

１－６．生活一般／調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の関連設問 …… 9

２．工作／栽培に関する技能

２－１．工作／栽培に関する技能の習得状況 ……11

２－２．工作／栽培に関する技能の男女別習得状況 ……12

２－３．工作／栽培に関する技能の地域別習得状況 ……13

２－４．工作／栽培に関する技能の経験時期 ……14

２－５．工作／栽培に関する技能を教わった人物 ……16

２－６．工作／栽培に関する技能の関連設問 ……18

３．その他・生活習慣等の関連設問 ……21

第２部　教員養成系大学・学部生の生活技能について

第１章　１年生の生活技能

１．生活一般に関する技能
１－１．生活一般に関する技能の習得状況 ……23
１－２．生活一般に関する技能の男女別習得状況 ……24
１－３．生活一般に関する技能の地域別習得状況 ……25
１－４．生活一般に関する技能の関連設問 ……26

２．調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能
２－１．調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の習得状況 ……27
２－２．調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の男女別習得状況 ……28
２－３．調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の地域別習得状況 ……29
２－４．調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の関連設問 ……30

３．工作・栽培に関する技能
３－１．工作・栽培に関する技能の習得状況 ……31
３－２．工作・栽培に関する技能の男女別習得状況 ……32
３－３．工作・栽培に関する技能の地域別習得状況 ……33
３－４．工作・栽培に関する技能の関連設問 ……34

４．ICT 活用・その他に関する技能
４－１．ICT 活用・その他に関する技能の習得状況 ……37
４－２．ICT 活用・その他に関する技能の男女別習得状況 ……38
４－３．ICT 活用・その他に関する技能の地域別習得状況 ……39
４－４．ICT 活用・その他に関する技能の関連設問 ……40

５．その他・生活習慣等の関連設問 ……42

第２章　４年生の生活技能

１．生活一般に関する技能
　１－１．生活一般に関する技能の学年別習得状況 ……45
　１－２．生活一般に関する技能の関連設問 ……46

２．調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能
　２－１．調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の学年別習得状況 ……47
　２－２．調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の関連設問 ……48

３．工作・栽培に関する技能
　３－１．工作・栽培に関する技能の学年別習得状況 ……49
　３－２．工作・栽培に関する技能の関連設問 ……50

４．ICT 活用／その他に関する技能
　４－１．ICT 活用／その他に関する技能の学年別習得状況 ……52
　４－２．ICT 活用／その他に関する技能の関連設問 ……53

５．その他・生活習慣等の関連設問 ……54

添付資料　生活技能調査用紙

○ いつごろ体験しましたか？～生活体験確認シート～ ……小学生向け
○ 生活技能に関する調査 ……大学生向け